

地域医療学Ⅱ

ナンバリング

M3-S1-F06

責任者・コーディネーター		地域医療学分野 伊藤 智範 教授	
担当講座・学科（分野）		地域医療学分野	
担当教員		伊藤 智範 教授、地域医療機関指導者	
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 0コマ 0.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 20コマ 40.0時間

・学習方針（講義概要等）

将来、医師として働く場所には必ず地域がある。医療はその地域の一部であり、地域全体を理解することがリーダーたる医師が社会人として働くために重要である。1年次には、医療入門で医療機関と保健介護福祉施設を分けて研修を行ったが、3年次では1週間地域に滞在して、そのエリア全体を意識して、医療機関と保健介護福祉施設を含めた地域包括ケアの基礎を理解することが本科目の目的である。その中で医師が果たすべき役割・社会から医療に求められていることはなにかを学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

そのエリア全体を意識して、医療機関と保健介護福祉施設を含めた地域医療・地域包括ケアを理解することで、地域医療機関で働く医師になる者としての自覚を高めるとともに、地域内で医師が果たすべき役割を習得できるようになる。また、本実習を経験することで、5年次の長期地域医療実習の基礎を会得できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー： 2,6,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	地域医療に含まれる内容の概要を説明できる。
2	保健組織活動上の行政の役割を説明できる(各種検診、健康教育：健康増進に係る各機関の役割を説明できる)。
3	介護保健施設の役割と行政上の位置づけを説明できる。
4	在宅医療(訪問診療)の概要を説明できる。
5	医療機関相互の連携(病診連携)と各施設の役割を説明できる。
6	実習医療施設内で、地域での救急医療、休日・夜間医療(宿直)を経験して、ほかの職種の役割とその概要を説明し、地域医療に関わる医療スタッフと円滑にコミュニケーションできる(コミュニケーションにおける共感、敬意、思いやりの重要性を理解することができる)。
7	学生自身、患者、他の医療スタッフの安全に配慮できる(医療安全規範について説明できる)。
8	地域医療に必要な医学知識・身体診察技術を明確にし、実習で求められる医療者援助と見学を適切に行うことができる。
9	実習医療施設外では、在宅医療(訪問診療)、へき地医療(巡回診療)など院外での医療・保険・福祉・介護活動に参加し、それぞれのスタッフの介助を行うことができる(他の職種の専門性を理解し、チーム医療の必要性と構成員の役割分担を説明できる)。

10	地域で受け入れられる全人的総合医療を実践できる人間性豊かな医師になるために、必要なことを考察して、レポートにまとめて、今後医師になるための抱負を論じることができる。
11	地域包括ケアの概念および地域医療および医師偏在の現況を概説できる。

・ 講義場所

各 地域医療機関

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
実習	8/31~9/4 又は 9/7~9/11	1 ~ 4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療研修	1~11	<p>【事前学修】 実習に行く施設の情報収集とその地域の医療状況を調べておくこと。所要時間 60分</p> <p>【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。所要時間 60分</p> <p>【ICT】 レポートをWebClassに提出する</p>

・ 教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	地域医療学入門	藤実彰一	株式会社 診断と治療社	2019

・ 成績評価方法

<p>【総括評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設指導者による研修態度評価：60% 実習施設でのグループ発表会の内容・態度：20% レポート（1000字以上：①到達目標9と11について論じる、②実習を通して医師となる抱負、③医師になるためにこれから必要なことを考察して記載する）の内容・提出：20% <p>※レポート未提出の場合、総括評価の対象としない</p> <p>【形成的評価】 実習先施設からの評価表をもとに、助言等、個別にフィードバックする。</p>								
到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1~8	2,3,6,7,8					20	60	80
9~11	6,8		20					20
合計			20			20	60	100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各実習に対する事前・事後学修の時間は毎日最低60分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

学内講義室、地域の医療施設と周辺施設

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			